

日本土壤微生物学会 2007 年度大会のお知らせ

日時：2007年6月7日（木） 10時 ～ 12時 公開シンポジウム
13時 ～ 18時 学会シンポジウム
17時30分～18時 日本農学会受賞記念講演（服部 勉）
18時10分～20時 懇親会（東葛テクノプラザ内ラウンジ）
8日（金） 9時25分～17時 一般講演，総会，ポスター発表

場所：東葛テクノプラザ 多目的ホール

（〒277-0882 柏市柏の葉5-4-6 TEL：04-7133-0139 FAX：04-7133-0162）

東武バスで（「国立がんセンター」の停留所から徒歩5分）

*JR 柏駅 西口から「国立がんセンター」行で約25分（終点下車徒歩約5分）片道280円

*つくばエクスプレス柏の葉キャンパス駅西口から「柏の葉公園循環」または「江戸川台駅東口」行で約6～11分（「国立がんセンター」下車徒歩約5分）片道160円

アクセス用の地図は東葛テクノプラザのホームページ（<http://www.ttp.or.jp/>）をご覧ください。

公開シンポジウム（一般市民対象）

「有機農業における微生物の役割」

1. 千葉県農耕地の実態と有機物を利用した土づくり：金子 文宜（千葉県農業総合研究センター）
2. 堆肥等有機物を利用した土壤病害の防除：雨宮 良幹（千葉大学園芸学部）

学会シンポジウム（大会参加者対象）

「環境保全型農業における微生物の利活用」

1. 生物性廃棄物コンポストの課題と利用促進：三枝 正彦（東北大学大学院農学研究科）
2. 堆肥化における微生物活用の光と陰：田知本 正夫（石川県立大学）
3. 化成品生産を伴う炭酸ガス非排出型生ゴミコンポスト化の試み：酒井 謙二（九州大学大学院農学研究科）
4. 微生物製剤開発の現状と課題：高原 吉幸（セントラル硝子（株））
5. 内生細菌の *Olpidium brassicae* 感染阻害効果とそれを用いたレタスビッグベイン病防除の可能性：
相野 公孝（兵庫県農林水産総合技術センター）

大会参加費（要旨集を含む） 学会当日、受付にてお支払い下さい。

会員 4,000円，非会員 5,000円，学生 2,000円（会員，非会員とも）

懇親会費 5,000円（学生 3,000円） *学生料金の適用には学生証の提示が必要です。

宿泊

各自でご予約下さい。柏駅周辺の他，つくばエクスプレス沿線に多数の宿泊施設があります（柏の葉キャンパス駅は秋葉原から約40分，北千住から20分，つくばから25分程度です）。

託児サービス

ご希望の方は5月7日（月）までに，大会事務局にご連絡ください。

大会事務局

千葉大学園芸学部 植物病学研究室

〒271-8510 松戸市松戸648 Tel：047-308-8825 Fax：047-308-8824

（大会委員長）雨宮 良幹，（事務局）宍戸 雅宏，宇佐見 俊行

大会プログラム変更などの最新情報は土壤微生物学会ホームページにてお知らせします。

<http://www.soc.nii.ac.jp/jssm/>

日本土壤微生物学会 2007 年度大会プログラム

6月7日(木)

公開シンポジウム 「有機農業における微生物の役割」

10:00 - 10:10 開会挨拶

10:10 - 11:00 千葉県農耕地の実態と有機物を利用した土づくり

金子 文宜 (千葉県農業総合研究センター)

11:00 - 11:50 堆肥等有機物を利用した土壌病害の防除

雨宮 良幹 (千葉大学大学院環境園芸学研究所)

学会シンポジウム 「環境保全型農業における微生物の利活用」

13:00 - 13:05 開会

13:05 - 13:50 生物性廃棄物コンポストの課題と利用促進

三枝 正彦 (東北大学大学院農学研究所)

13:50 - 14:35 堆肥化における微生物活用の光と陰

田知本 正夫 (石川県立大学)

14:35 - 15:20 化成品生産を伴う炭酸ガス非排出型生ゴミコンポスト化の試み

酒井 謙二 (九州大学大学院農学研究院)

15:20 - 15:40 休憩

15:40 - 16:15 微生物製剤開発の現状と課題

高原 吉幸 (セントラル硝子(株))

16:15 - 17:00 内生細菌の *Olpidium brassicae* 感染阻害効果とそれを用いたレタスビッグベイン病防除の可能性

相野 公孝 (兵庫県農林水産総合技術センター)

17:00 - 17:30 総合討論

17:30 - 18:00 日本農学会賞受賞特別講演

服部 勉

18:10 - 20:00 懇親会

6月8日(金)

一般講演(口頭発表)

9:30 - 9:45 O-1 メタン酸化細菌に対する原生動物の捕食選択性

○村瀬潤・Peter Frenzel

(名古屋大院生命農, Max Planck Institute for Terrestrial Microbiology)

9:45 - 10:00 O-2 メタン生成古細菌に感染するファージの探索

内藤知子・内田佳奈・中山奈津子・大澄直樹・木村真人・○浅川晋

(名古屋大院生命農)

10:00 - 10:15 O-3 野生イネ、栽培イネに内生する細菌エンドファイトのゲノム解析

○南澤究¹・金子貴一²・中村保一²・渡辺安希子²・佐藤雅志¹・阿部匡¹・

江田志摩¹・三井久幸¹・板倉学¹・田畑哲之²

(¹ 東北大院生命, ² かずさ DNA 研究所)

10:15 - 10:30 O-4 サイズ分布から見た水田表面水中ウイルスの多様性

○中山奈津子¹・奥村真未¹・井上勝弘²・浅川晋¹・木村真人¹

(¹ 名古屋大院生命農, ² 愛知県農総試)

10:30 - 10:45 休憩

10:45 - 11:00 O-5 緑肥および堆肥施用が微生物バイオマスに及ぼす影響

○宮丸直子・儀間靖・與那嶺介功・亀谷茂 (沖縄県農研セ(土壌環境班))

11:00 - 11:15 O-6 炭素化物添加による米ヌカの堆肥化微生物群の増殖

○田中理子¹・大畑宙生¹・峯木茂²・後藤純雄³・藤岡賢士⁴・吉澤秀治¹

(¹ 明星大アジア環研セ, ² 東京理大, ³ 麻布大, ⁴ (有)ベンチャーバイサー)

11:15 - 11:30 O-7 ミミズと有機性廃棄物を用いた油汚染土壌の浄化プロセスにおける土壌機能の変化

○飯野道彦・豊田剛己 (東京農工大 BASE)

- 11:30 - 11:45 O-8 凍結置換法によるアーバスキュラー菌根菌の液胞内ポリリン酸の観察
名雪桂一郎¹・村瀬正剛²・江沢辰広²・久我ゆかり¹ (¹信州大農, ²北海道大院農)
- 11:45 - 12:00 O-9 菌根共生初期に増大するリン酸化シグナル
○大友量^{1,4}・小島知子^{1,4}・江沢辰広²・川口正代司^{3,4}
(¹畜草研, ²北海道大院農, ³東京大院理, ⁴CREST)
- 12:10 - 13:00 評議員会
- 13:10 - 13:50 総会
- 14:00 - 15:20 ポスター発表コアタイム
- 15:30 - 15:45 O-10 白紋羽病菌非病原性菌株の土壌中における生存性
○中村仁・佐々木厚子・松本直幸・吉田幸二・島根孝典 (果樹研)
- 15:45 - 16:00 O-11 クロマツ内生放線菌を用いた土壌病害抑制
○片岡良太・藤井千絵・二井一禎 (京都大院農)
- 16:00 - 16:15 O-12 トマトの生育促進と青枯病耐性をもたらす植物随伴細菌
○奈良吉主^{1,2}・加藤孝太郎²・田渕浩康²・有江力¹・寺岡徹¹・木嶋利男²
(¹東京農工大, ²微生物応用技術研)
- 16:15 - 16:30 O-13 クオルモン分解酵素による青枯病菌細胞外多糖産生抑制
○篠原信・窪田昌春・西和文 (野茶研 (野菜 IPM 研究チーム))
- 16:30 - 16:45 O-14 有機養液栽培におけるトマト根面のバイオフィルムの解析
○渡邊篤敬¹・篠原信²・高野雅夫¹ (¹名古屋大理, ²野茶研 (野菜 IPM 研究チーム))
- 16:45 - 16:50 閉会

ポスター発表演題:ポスターは大会期間中掲示されます (コアタイム 6月8日 14:00 - 15:20)

- P-1 トマト萎ちょう病菌 J1 を指示菌とした被覆培養法による土壌微生物性診断の試み
○田中慶昌・小田正文・松本卓生 (エーザイ生科研 (株))
- P-2 抑止率を高める資材の開発
田中慶昌・松本卓生 (エーザイ生科研 (株))
- P-3 おとり植物による根こぶ病菌密度低減効果に及ぼす土壌 pH の影響
○村上弘治・畔柳有希子 (野茶研)
- P-4 拮抗微生物非病原性 *Agrobacterium vitis* VAR03⁻¹ 株のブドウ根部に対する定着性
○川口章・井上幸次 (岡山県農総セ (農業試験場))
- P-5 トマト青枯病菌、青枯病拮抗菌を接種したトマト根の細菌群集構造の解析
○須賀有子・豊田剛己・堀 兼明・小森冨香・福永亜矢子・池田順一
(近中四農研セ (環境保全型野菜研究チーム))
- P-6 オカラ・コーヒー粕堆肥連用土壌の根圏微生物群集構造解析
○佐藤恵利華¹・武田甲²・豊田剛己¹ (¹東京農工大 BASE, ²神奈川県農技セ)
- P-7 土壌微生物活性と堆肥由来窒素の利用率
○森岡幹夫・塩野宏之・熊谷勝巳 (山形県農総研セ)
- P-8 有機質資材投入土壌における大腸菌群の多様性
○木嶋伸行・徳田 進一 (野茶研)
- P-9 汽水性潟湖における底質環境と硫酸還元細菌群集構造との関係
○村岡歩¹・金谷弦²・鹿野秀一² (¹東北大院生命科学, ²東北大東北アジア研究セ)
- P-10 乳牛ふん尿メタン発酵における脱硫バイオフィルターの硫化水素を酸化する細菌
○中村恵・岡本英竜・宮川栄一 (酪農学園大院酪農)
- P-11 根粒菌、菌根菌、*Azospirillum* の共接種がダイズ生育に及ぼす影響
○岡紀邦・建部雅子・岡崎圭毅 (北農研セ)
- P-12 黒ボク土に含まれるリンの可給態化に対する土壌微生物の寄与について
○立石貴浩・島山奈津 (岩手大農)
- P-13 幼苗検定 PCR 法によるウリ類ホモプシス根腐病菌汚染土壌の診断
○六戸雅宏¹・國友映理子¹・牛尾進吾²・久保周子²・竹内妙子² (¹千葉大院園, ²千葉県農総研セ)

- P-14 γ -HCH が分解されない土壌における γ -HCH 分解系遺伝子群に関する研究
 - γ -HCH 分解菌 *Spingobium japonicum* の土壌における γ -HCH 分解能獲得過程の解明をめざして-
 甲斐孝博・大塚重人・〇妹尾啓史 (東京大院農学生命科学)
- P-15 酸素電極を用いた土壌バイオマス量の評価の試み
 〇杉戸智子・岡紀邦 (北農研セ)
- P-16 数種のアーバスキュラー菌根菌におけるポリリン酸蓄積の違い
 〇西村伊吹¹・大友量²・對馬誠也³・太田寛行¹・斎藤雅典³ (¹茨城大農, ²畜草研, ³農環研)
- P-17 ムギ根圏土壌より分離された新規 Deoxynivalenol 分解細菌
 〇生長陽子・佐藤育男・吉田重信・小板橋基夫・對馬誠也 (農環研)
- P-18 Long-term effect of urea application on atmospheric nitrous oxide and soil microbes in the tropics.
 Abdul Hadi¹, Oslan Jumadi², Kazuyuki Inubushi² (¹Lambung Mangkurat Univ., ²千葉大院園)
- P-19 Nitrous oxide production and community structure of ammonium oxidizer bacteria in Shizuoka tea soils.
 Oslan Jumadi¹, Masahiko Saigusa², Kazuyuki Inubushi¹ (¹千葉大院園, ²東北大院)
- P-20 サラダナ圃場における土壌くん蒸処理後の微生物相復活過程
 〇星野 (高田) 裕子¹・松本直幸¹・西村範夫²・藤田和久²・紀岡雄三³
 (¹農環研, ²九州沖縄農研セ, ³片倉チッカリン)
- P-21 黒大豆産地における連作障害の実態
 〇松本静治・吉川正巳 (京都府農総研 (環境部))
- P-22 海藻ソゾノハナのジャガイモそうか病防除効果
 〇仲川晃生¹・東美佐夫²・中江康仁²・亀井勇統³・福元彰一⁴
 (¹中央農研, ²奄美市役所, ³佐賀大, ⁴奄美看護学校)
- P-23 カリマンタン島における土地利用変化が亜酸化窒素発生と脱窒糸状菌に及ぼす影響
 〇榎本明子¹・柳井洋介¹・豊田剛己¹・波多野隆介²・Swuido H. LIMIN³
 (¹東京農工大, ²北海道大, ³パランカ・ラヤ大学)
- P-24 芝草のフェアリーリング病菌に対するバチルス属菌の影響
 〇寺嶋芳江 (千葉県森林研セ)
- P-25 *Pseudomonas putida* group のフェノール性有機酸分解特性と分類学的性状について
 〇野中和裕¹・細川桂一²・太田寛行¹ (¹茨城大農, ²プロテオミクス研)
- P-26 Characterization of *Herbaspirillum* spp. isolated from recent volcanic deposits of Miyake-jima Island
 〇 Lu Hongsheng^{1,2}, Yoshinori Sato¹, Reiko Fujimura¹, Hiroyuki Ohta¹
 (¹Ibaraki Univ. College of Agriculture, ²Tokyo Univ. Agric. Technol.)
- P-27 キトサンが土壌細菌フロラに与える影響について
 〇澤口亜美¹・齋藤明広¹・坂本一憲²・安藤昭一¹ (¹千葉大院融合科学, ²千葉大院園)
- P-28 キュウリ幼苗検定法によるウリ類ホモブシス根腐病菌のほ場汚染程度の評価
 〇牛尾進吾・竹内妙子 (千葉県農総研セ)